

心理検査 Psychological test

○心理検査とは

皆さんの心理状態を測定する検査です。症状の把握や皆さんに合った治療や支援の方針を考えると、診断の補助を目的に行われます。心理検査で人間のすべての特徴がありありと分かる、ということはありません。

○心理検査を受けるには

当院の医師の指示が必要です。心理検査を希望される方は、主治医に相談をしてみてください。

○心理検査の主な目的

①認知機能や知的機能、②性格や気分状態、③発達の状態を調べるものがあります。また、一部の心理教育プログラムの適応や効果測定のために実施されます。それぞれについて説明したいと思います。

①認知機能や知的機能

認知機能とは、記憶や注意力など、人間の頭の働きのことを指します。年齢や病気の発症によって変化することが分かっています。検査では、物事のとらえ方や脳機能のバランス（得意なところ、不得意なところ）に注目します。

主な検査目的

- ・自分の能力に偏りがいないか調べたい。
- ・認知機能、特に記憶力が落ちているのではないか、認知症なのではないか心配。
- ・今後働く前に自分の特徴を調べたい。苦手なところを知っておきたい。
- ・職場復帰できるくらいまで、集中力が回復しているか調べたい。

②性格や気分状態

ご自身の性格傾向やどういう状態なのか測る検査になります。具体的には、行動パターンや対人関係の持ち方、ストレス度合いやストレスにどう対処しているか、または、他の精神疾患の特徴がないか調べます。アンケート形式や投影法（曖昧な素材を見て、自由に回答してもらう検査）課題などに取り組んでいただきます。

主な検査目的

- ・自分の性格傾向を知りたい。
- ・自分の精神状態について詳しく知りたい。

③発達の状態

もともと持っている発達や発達障害傾向を調べる検査になります。アンケートや保護者への聞き取り、①のような認知機能を測定する検査などを行い、これからの支援方法やよりよい生活を送るために気をつけることなどを調べます。

主な検査目的

- ・自分が発達障害かどうか調べたい。
- ・周囲の人に自分のことを知ってもらうための資料を作りたい。

○心理検査の料金

- ・検査ごとに診療報酬に則り請求させていただきます。
- ・自立支援医療の対象です。
- ・検査前に大まかな料金が知りたい場合は、お問い合わせいただければお答えできます。

○心理検査の注意点

ネットや SNS など検査のことを事前に調べずにお越しください。検査の内容や分析の方法を事前に知ってしまうと、客観性や信頼性の低い結果となってしまいます。

Q&A

Q. 心理検査を受けたら発達障害の診断はできますか？

A. 発達障害かどうかの診断は、診察で主治医にお話しされた内容や様々な情報も踏まえて総合的な判断となります。検査結果もその一部となり、心理検査の結果だけで診断することはできません。

Q. 検査結果はどれくらいわかりますか？

A. 検査結果(所見)は、2週間程度で作成するようにしています。検査結果に関する説明は主治医より行いますので、すべての検査終了後から2週間以降の主治医の診察の予約をしてください。

Q. 入院中には実施可能でしょうか？

A. 可能です。主治医に相談してみてください。